



●●●● 少女雑誌の部屋から ●●●●

今月号でご紹介するのは昭和17年から19年にかけて発行された雑誌『日本少女』です。戦況が厳しさを増していく中で、少女雑誌の表紙には健康的でたくましい少女たちの姿が描かれるようになり、内容も次第に軍事色の濃いものになっていきました。そのような状況下で誕生した『日本少女』も他の少女雑誌と同様に戦意高揚を目的としており、毎号の表紙には愛国心を煽るようなスローガンが添えられていました。少女たちの夢が詰まっていたはずの雑誌がプロパガンダに利用される、この先二度とあってはならないことです。

日本少女

小学館

昭和16(1941)年12月、太平洋戦争開戦後は出版に対する統制が強化されていった。小学館から発行されていた学年別学習雑誌も統合改題され、国民学校6年生以上、女学校1・2年生及び勤労少女を対象として創刊されたのが『日本少女』である。国策雑誌と言える存在であり、創刊当初から終刊までとおして戦意を高揚させる内容だった。

(創刊 昭和17年2月号～終刊 昭和19年3月号)

※当館では発行された26冊のうち24冊を所蔵しています。昭和17年5月号、昭和19年2月号欠号

昭和17年2月創刊号「^{へんしゅう}編集部から」より

(前略)この歴史始まって以来の大戦下に於て、日本の少女はどんな心構へで、どんな毎日を送ってゆかねばならないか—それは大きな問題です。本誌「日本少女」は斯うした大使命を、皆さんと一緒に考へ、皆さんと共に解決してゆく為生れたのです。(中略)次号からは、追々に紙面を充實(じゅうじつ)して、眞に「日本少女」の名に恥ぢぬものに致したいと思ひます。(中略)この號が出る一月の末までには、皇軍^{※1}は果してどんなすばらしい戦果をあげることか、私達はそれを期待しつつ、銃後鐵桶(てつとう)^{※2}の備へに邁進することをお約束いたませう。

※1 皇軍・・・天皇が統率する軍隊 ※2 鐵桶・・・防備や団結などが、きわめて堅固ですきまのないこと

見え隠れするプロパガンダ

一番目に留まる雑誌の表紙には戦意高揚を狙ったスローガンが添えられ、裏表紙は広告だけでなく資源の供出、備蓄の呼びかけにも使われています。これらの言葉を純粹に受け止め、影響を受けた少女たちが日本国中にどれだけいたことでしょうか。

表紙に添えられたスローガン

この一戦 何が なんでも やり抜くぞ

(昭和17年2月号)

職場も戦場

(昭和17年9月号)

撃ちてし止まむ

(昭和18年7月号)

昭和18年2月号裏表紙より



鐵(鉄)、銅、アルミ、紙、ボロ、麻、ゴム、ガラスの8品目について、代用品を使って資源を活かし蓄えよと呼びかけられています。主に兵器、装備品などの軍需品に利用するためでした。「お国のためにお役に立ちたい」との一心で、何の疑いもなく供出されていたのでしょうか。